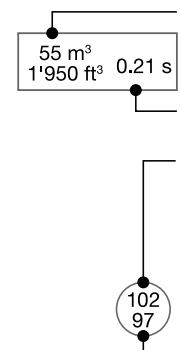
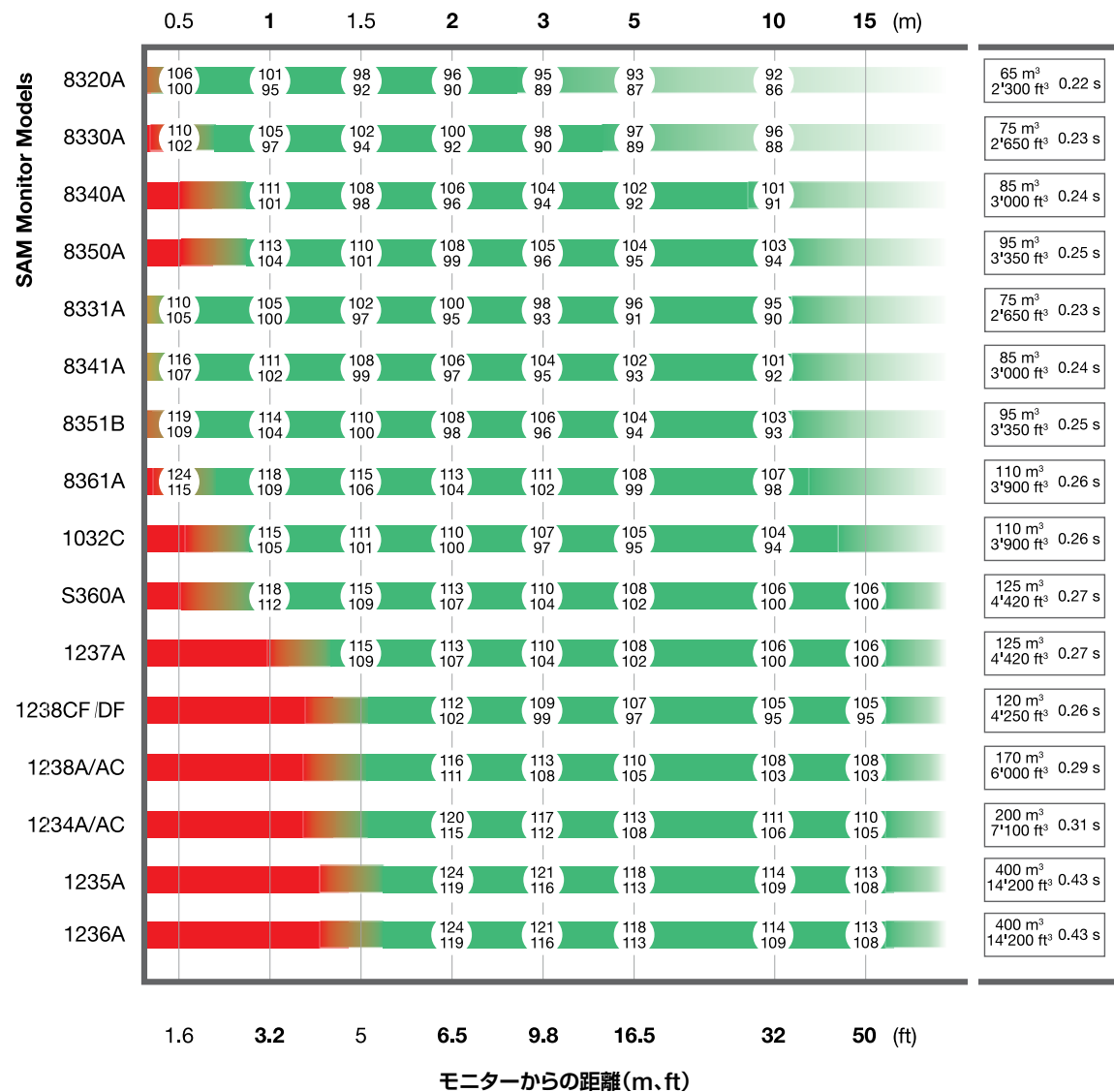


# Genelec Monitors | 推奨されるリスニング距離

モニターとリスニング・ポイントとの距離は、モニターのパフォーマンスやリスニング・ポイントにおける SPL に大きく影響します。以下の図は、各 Genelec 製品におけるリスニング距離と SPL の関係を示したものです。



室内容積

室内残響時間 (RT60)

短期音圧レベル

100 Hz ~ 3 kHz を平均した短期正弦波最大音圧レベル、半空間、軸上、1 m で計測。ピーク・レベルはこれより高くなります。一般的なイマーシブ・スタンダードおよびオーディオ・コンテンツの場合、ヘッドルームが 4 dB 低くなる傾向にあります。詳細はジェネレックジャパンにお問い合わせください。

長期音圧レベル

長期 RMS 最大音圧レベル、IEC60268-5 準拠の擬似プログラム信号を使用、反空間、軸上、1 m で計測（ドライバー・ユニットの保護回路による制限あり）。

リスニング距離と音圧レベル

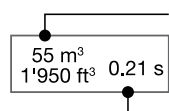
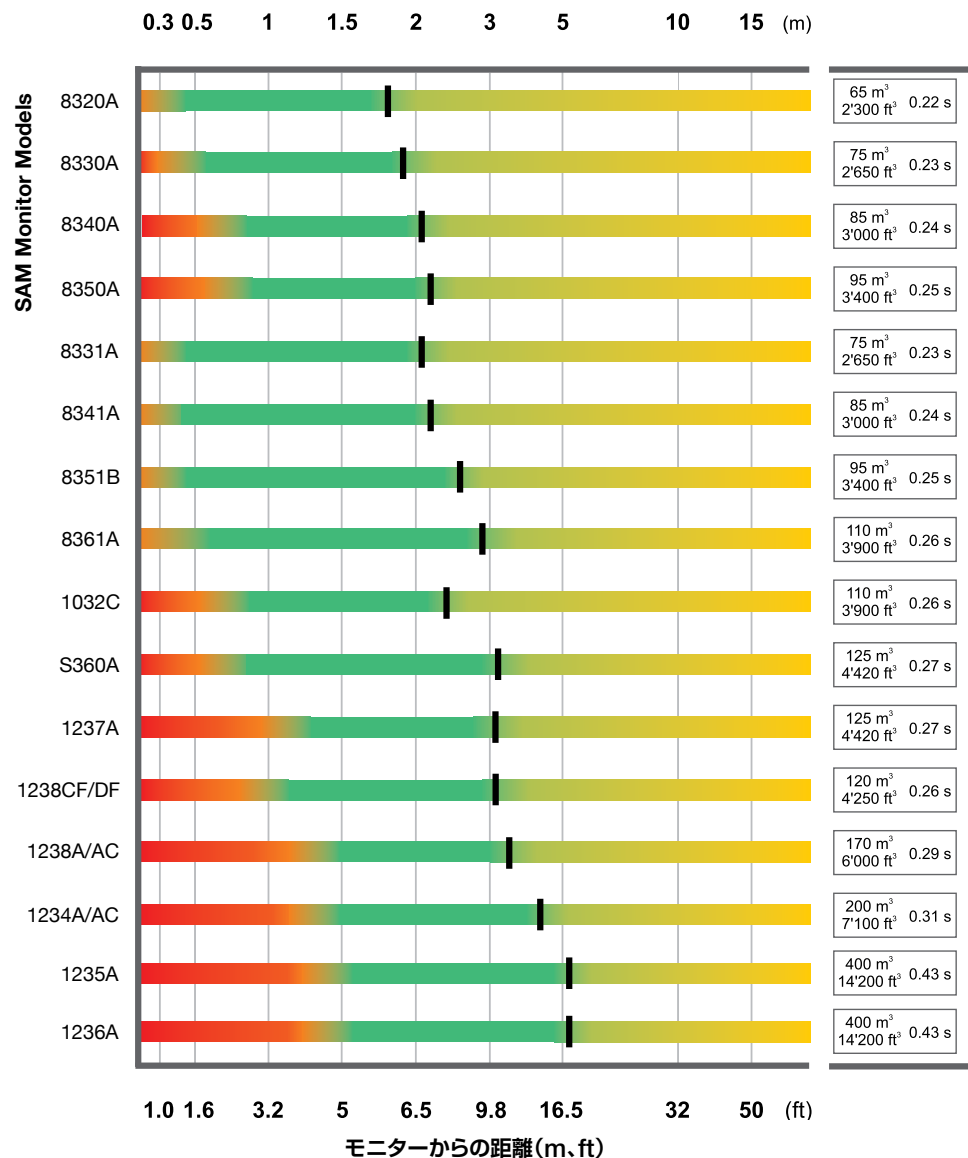
記載の短期および長期音圧レベル (SPL) には各製品に対して一般的な室内環境要因が考慮されています (ITU-R BS.1116-1 勧告)。室内残響時間が長い場合、主に長期音圧レベルに影響し、ここに示された値よりも高くなります。

推奨されない距離

モニターまでの距離が近すぎると、複数のドライバーの音のサミングが設計どおりにならず、周波数特性のフラットさに影響を与えます。ある程度の距離を置く方がよりフラットで安定した周波数特性を得ることができます。

# Genelec Monitors | 直接音の優位性

直接音と反射音のバランスは、リスニング・ポジションでの実際の聴こえ方に大きな影響を与えます。以下の表は、各 Genelec 製品における最適なリスニング距離を検討するのに役立ちます。



## 室内容積

## 室内残響時間 (RT60)

モニターまでの距離が近すぎると、複数のドライバーの音のサミングが設計どおりにならず、周波数特性のフラットさに影響を与えます。ある程度の距離を置く方がよりフラットで安定した周波数特性を得ることができます。

この距離範囲内ではモニターからの直接音が室内残響音よりも高レベルとなります。この範囲内にモニターを配置すると、室内残響によりモニター・サウンドの音色特性が変化しステレオ・イメージングの正確性に影響が出るという性質を最小限に抑えることができるという点で有益です。モニターからの距離が広がるにつれて残響音に対する直接音のレベルは徐々に低下します。

臨界距離はモニターからの直接音と室内残響音が同じレベルになる距離を指します。臨界距離は、室内容積、室内残響時間 (ITU-R BS.1116-1 勧告参照)、モニターの指向性の影響を受けます。

この距離では室内残響音はモニターからの直接音よりも高レベルになります。この割合はモニターからの距離が広がるにつれて徐々に増加します。この距離範囲内でもモニターを使用することは可能ですが、サウンドは室内残響特性の影響を強く受けるようになり、音色とステレオ・イメージング精度への影響も次第に増加します。